

佐渡裕

指揮

新日本フィルハーモニー交響楽団

ヴァイオリン 三浦文彰

次代の巨匠ヴァイオリニストと贈る
ブラームス最高傑作

ブラームス

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.77

交響曲第1番 ハ短調 Op.68

© Yoji Horii

© Jun Yoshimura

© K.Miura

2026

6.4 木

18:45 開演
[18:00 開場]

愛知県芸術劇場コンサートホール

料金[全席指定・税込]

S席 14,000円 / A席 11,000円 / B席 8,000円 / U25 2,000円

※U25は一般発売より、クラシック名古屋(電話)のみ取扱い。公演当日25歳以下、来場時に年齢確認有り。お一人様1枚限りです。※車椅子でご来場されるお客様はご購入前に必ずクラシック名古屋までお問合せください。※やむを得ない事情により、出演者・曲目・曲順などが変更になる場合がございます。その場合もチケットの払い戻しは承れません。ご了承ください。※未就学児のご入場はご遠慮ください。※チケットのご購入はお一人様6枚まで。

発売日 / 2月7日[土] 10:00~ WEB先行 / 1月24日[土] 10:00~
(東海テレビチケットセンター / アイ・チケット)

主催 | 東海テレビ放送 協力 | クラシック名古屋

プレイガイド

東海テレビチケットセンター 東海テレビ イベント 検索

052-951-9104 (平日 10:00~17:00)

初日特電 052-308-4847 (2/7(土) 10:00~15:00のみ)

詳細は
こちら



クラシック名古屋 052-678-5310

アイ・チケット 0570-00-5310

アイ・チケット 検索

チケットぴあ(Pコード:316-660) / イープラス / 芸文プレイガイド 052-972-0430

公演に関するお問合せ | 東海テレビ放送 事業部 052-954-1107(平日 10:00~17:00)

トップアーティストの「響宴」で味わうブラームス！

音楽評論家 奥田佳道

マエストロ佐渡裕とヴァイオリンの三浦文彰がブラームスを奏でる。ファン憧れのトップアーティストの「響宴」に胸ときめく。

愛すべきキーワードが浮かぶ。音楽の都ウィーンだ。佐渡も三浦もウィーンから檜舞台に羽ばたいた。ドイツ北部の港街ハンブルクに生れたブラームスも20代の終わりにウィーンに住み、ゴールドの装飾もまぶしい、あの楽友協会の監督も務めた。

ブラームスはお気に入りの避暑地で創作のペンを執る夏の作曲家だった。傑作の誉れ高いヴァイオリン協奏曲は、オーストリア南部ヴェルター湖畔の美しい村ペルチャッハで書かれた。壮大にして優美。三浦が紡ぐ流麗かつ技巧的なソロパートばかりでなく、オーケストラがまた素晴らしい。夢見るような調べもハンガリー舞曲に通じる躍動感も聴こえてくる。

練達のキャリアを誇る佐渡が、劇的な交響曲第1番に腕をふるう、と記しただけで早くも興奮を隠せないファンも多いことだろう。ここへきて演奏のクオリティをぐっと高めている新日本フィルハーモニー交響楽団と佐渡のステージは、いま音楽シーンの華だ。喝采が早くも聴こえてくるかのよう。

ブラームスづくしのロマンティックなコンサート。開演が近づいてきた。



© Masahiro Uto

三浦文彰

Fumiaki MIURA (ヴァイオリン)

ハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に一躍脚光を浴びた。18年サントリーホールARKクラシックスのアーティストティック・リーダー、24年に宮崎国際音楽祭の音楽監督に就任。ロサンゼルス・フィル、マリンスキー劇場管、イスラエル・フィル、ベルリン・ドイツ響、NDRエルブ・フィルなどと共演。共演した指揮者ドゥダメル、ゲルギエフ、フェドセーエフ、ズーカマン、ロウヴァリ、フルシャなど。ロイヤル・フィルのアーティスト・イン・レジデンスも務めた。

室内楽では、ズーカマン、マイスキー、ピリスなどと共演。国内では、大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽を演奏したことやTBS「情熱大陸」への出演も大きな話題になった。24年、デビュー15周年を迎え、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会を行い絶賛を博した。25年には、フィルハーモニア管、バンベルク響と共演。CDはエイベックスよりリリース。09年度第20回出光音楽賞受賞。使用楽器は株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1732年製ガッレリ・デル・ジェス「カストン」。

佐渡裕

Yutaka SADO (指揮／音楽監督)

京都市立芸術大学卒業。レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年ブザンソン指揮者コンクール優勝。95年第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクール優勝。これまでパリ管弦楽団、ケルンWDR交響楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、欧州の一流オーケストラに多数客演を重ねている。2025年6月までオーストリアの名門トーンキュンストラ管弦楽団音楽監督を10年間務め、その後同楽団名誉指揮者に就任。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、シエナ・ウインド・オーケストラ首席指揮者、「サントリー1万人の第九」総監督などを務める。CD録音は多数あり、最新盤はトーンキュンストラ管弦楽団を指揮した22枚目のCD「マーラー：交響曲第6番」。著書に「僕はいかにして指揮者になったのか」（新潮文庫）、「棒を振る人生～指揮者は時間を彫刻する～」(PHP文庫／新書)など。

オフィシャルファンサイト
<http://yutaka-sado.meetsfan.jp>



© Peter Rigaud c/o Shotview Artists

新日本フィルハーモニー交響楽団



1972年、小澤征爾、山本直純の下、自主運営のオーケストラとして創立。97年、すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、地域に根ざした演奏活動も精力的に行う。

99年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任、歴代の指揮者には、初代音楽監督・小泉和裕（75～79年）、第2代音楽監督・井上道義（83～88年）、第3代音楽監督・クリスティアン・アルミンク（03～13年）、第4代音楽監督・上岡敏之（16～21年）。ダニエル・ハーディングがMusic Partner of NJP（10～16年）、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residence（13～15年）、久石譲が新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ（W.D.O.）音楽監督（04～25年3月）、Music Partner（20～25年3月）を務めた。

受賞歴に三菱信託音楽奨励賞、三菱UFJ信託音楽賞、ミュージック・ベンクラブ音楽賞等。2023年4月より佐渡裕が第5代音楽監督に就任。街・ホール・オーケストラが一体となった音楽活動を行う。

公式ウェブサイト：www.njp.or.jp 公式X：@newjapanphil
公式Facebook：/newjapanphil 公式Instagram：/newjapanphil



© K.Miura